

平成26年度内閣府青年国際交流事業 既参加日本青年フォローアップ調査 報告書

目次

第 1 調査の概要	3
1.調査の目的.....	3
2.調査の時期.....	3
3.調査の対象者.....	3
4.調査事項.....	3
5.調査の方法.....	3
6.調査の委嘱.....	3
第 2 回答者の特性	4
第 3 調査結果の概要	5
第 1 章 内閣府事業の事後活動(IYEO活動や事業参加をきっかけとして行っている社会活動)に関連した 事後活動並びにあなたが自主的に行っている社会活動について.....	5
第 2 章 内閣府青年国際交流事業への参加状況と参加による影響について.....	12
第 4 付録	18
資料 1 調査票その他の調査関係資料	18
a.依頼文書(電子メールによる).....	18
b.調査票ーオンラインフォーマット 鏡文.....	20
c. 調査票ーオンラインフォーマット 回答用紙.....	21
資料 3 内閣府青年国際交流事業の概要(平成 27年度派遣事業)	30
資料 4 日本青年国際交流機構(IYEO)の概要	32

第1 調査の概要

1.調査の目的

内閣府では、青少年育成の一環として、昭和34年以来、数々の青年国際交流事業を継続して行ってきた。これらの交流事業は、日本と諸外国の青年相互の理解と友好の促進、国際性を備えた青少年の育成及びその経験をいかした成果の地域・職域等への還元を図ることを目的として実施されている。

このような青年国際交流事業の趣旨を踏まえ、参加青年が事業に参加後、一定の時間が経過した時点で国際交流等に関しどのような認識を有しているか、また、実際の事後活動がどの程度の規模・頻度でどのように行われているか等、事業の諸効果を的確に把握するため、国際交流事業に参加した青年の意識や事後活動の実態、参加意欲などを調査し、もって今後の青少年に関する各種施策の推進に資することを目的とする。

2.調査の時期

平成28年1月27日(水)～2月22日(月)

3.調査の対象者

平成26年度グローバルリーダー事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」日本参加青年 **106人**

4.調査事項

- (1) 青年国際交流事業への参加による意識の変化
- (2) 青年国際交流事業の成果
- (3) 成果の社会への還元方法
- (4) 青年国際交流事業の在り方(プログラムの内容、構成等)
- (5) 事業終了後の既参加青年のネットワークへの参加の程度

5.調査の方法

- (1) 質問票の発信 平成28年1月27日(水)
- (2) 回収締め切り 平成28年2月22日(月)
- (3) 有効回収数 **70通、66%**

6.調査の委嘱

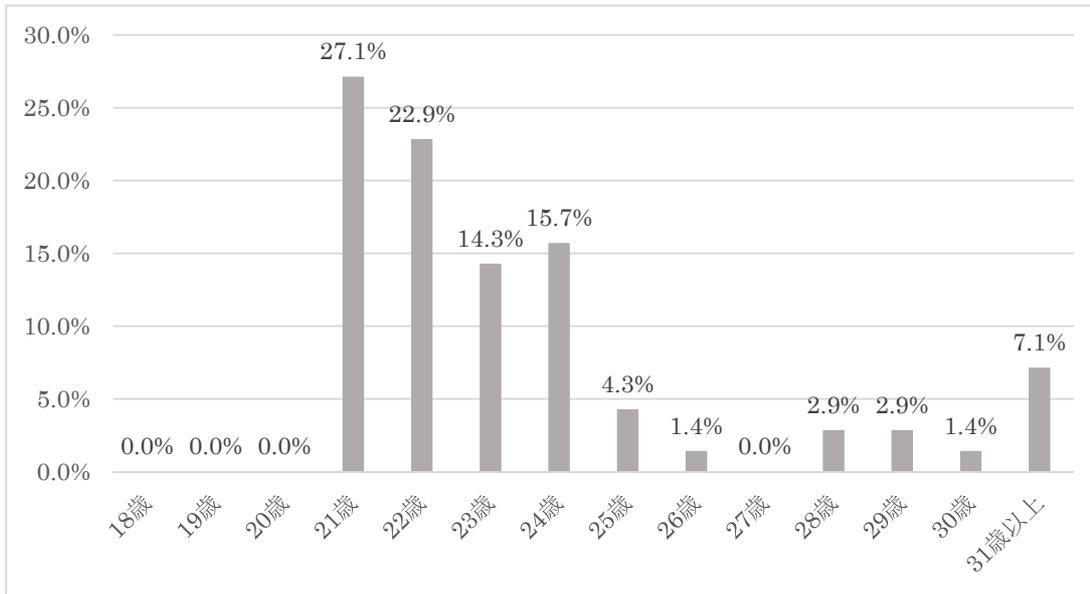
調査事項の設定は、内閣府青年国際交流担当室が行い、質問票の企画、調査の実施、集計結果分析及び結果報告書の作成を一般財団法人 青少年国際交流推進センターに委嘱した。

※本書を読む際の注意

- 1 比較の数値は、小数点以下第1位までとしている
- 2 0人、0%は該当者がいないことを示す。
- 3 図表においては、回答分の一部(原則として後半半分部分)を省略している場合がある。正確な回答分は回答部分によって確かめられたい。
- 4 クロス集計表の表側も表記を簡略化してある。

第2 回答者の特性

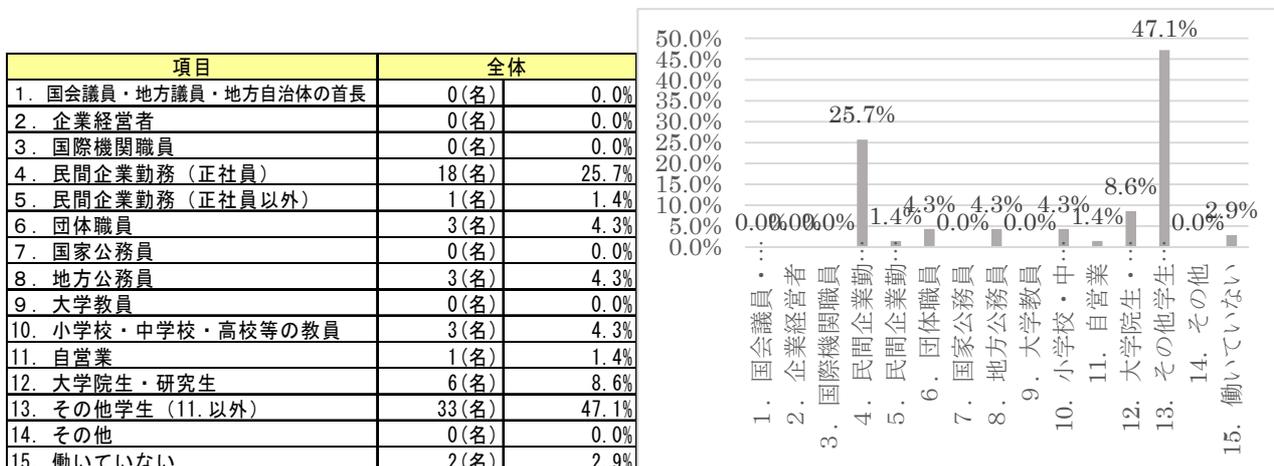
問1 あなたの現在の年齢をお答えください。



問2 あなたの性別をお答えください



問3 あなたの現在の就業状況をお答えください。(○は1つ)



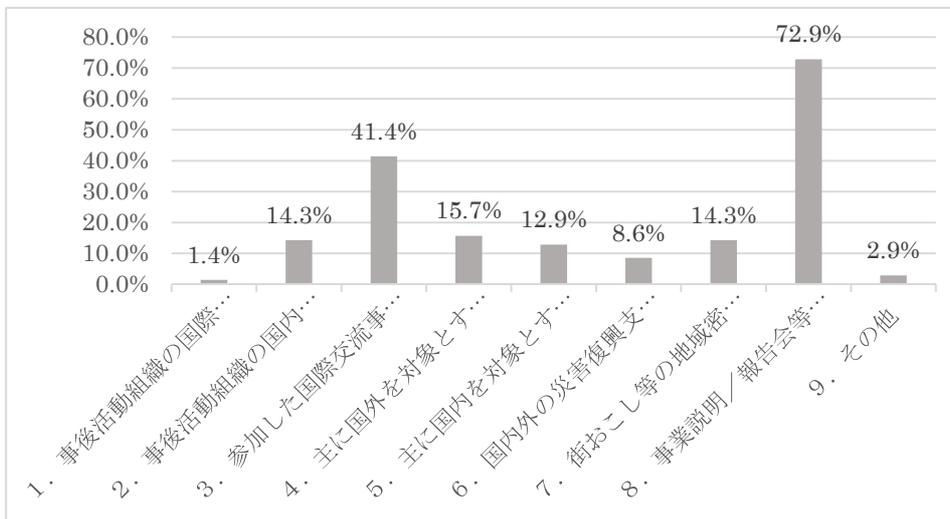
第3 調査結果の概要

第1章 内閣府事業の事後活動(IYEO活動や事業参加をきっかけとして行っている社会活動)に関連した事後活動並びにあなたが自主的に行っている社会活動について

問4-1 下記の活動のうち、あなたが企画または参加したことのあるものをお選びください。(複数選択可)

「事業説明会/報告会等の事業参加経験を他社に伝える活動」に関わっている割合が72.9%となっており、1年以上としては事業の体験をしたり、直接事業の受入れなどに関わったりする等の活動が取り組みやすいことが伺える。

項目	人数	%
1. 事後活動組織の国際大会	1(名)	1.4%
2. 事後活動組織の国内大会(全国大会、ブロック大会等)	10(名)	14.3%
3. 参加した国際交流事業等の実施への協力(例:広報の実施、ホームステイの受入等)	29(名)	41.4%
4. 主に国外を対象とする国際交流活動(例:スタディツアー等)	11(名)	15.7%
5. 主に国内を対象とする国際交流活動(例:国際教育支援等)	9(名)	12.9%
6. 国内外の災害復興支援(東日本大震災復興支援活動等)	6(名)	8.6%
7. 街おこし等の地域密着型の社会活動	10(名)	14.3%
8. 事業説明/報告会等の事業参加経験を他者に伝える活動	51(名)	72.9%
9. その他	2(名)	2.9%



問4-1 「9.その他」の回答

IYEO 運営委員

国際交流基金モスクワ日本文化センターのボランティア

問4-2 問4-1で回答された活動について、A 企画した内容または B 参加した内容とあなたの役割について具体的に記入ください。

A.企画した内容(事業名、目的、ねらい、実施場所、規模(参加人数及び予算)、成果等を具体的に記入)

異文化理解

- ・事業名:外国人向け日本語教室の開催
 - ・目的:日本への興味を持ってもらう、日本語に慣れ親しんでもらう
 - ・ねらい:同上
 - ・実施場所:ダブリンシティ大学(留学先大学)
 - ・規模(参加人数及び予算):25人程度
 - ・成果等(具体的に記入):初心者向け、学習者向けとして8回ほど企画しましたが徐々に参加者が増えました。教室以外の場で日本語で声をかけてもらえたり、日本についての質問をされたりということもありました。
-
- ・事業名:日・エカテリンブルグ青年交流プログラム
 - ・目的:日露間の相互理解と良好関係への貢献、将来日露間で活躍する青年の育成
 - ・ねらい:日露青年の交流と育成
 - ・実施場所:エカテリンブルグ、ロシア
 - ・規模(参加人数及び予算):日本人大学生10名(予定)、現地の学生および関係者多数
 - ・成果等(具体的に記入):2016年秋実施予定

地域活動

- ・事業名:絆ジャパン
 - ・目的:福島の復興支援
 - ・ねらい:養護施設の子どもを励ますこと
 - ・実施場所:エンジェルハウス
 - ・規模(参加人数及び予算):30人(予算は不明)
 - ・成果等(具体的に記入):役割は子どもと遊ぶことと、悩み相談である。初めは、自分の将来の夢を語れなかった子どもたちが時間がたつごとに語れるようになった。特に海外に興味を持てる子どもが増えた。
-
- ・事業名:胆振国際協力セミナー
 - ・目的:地方在住の中学生以上を対象に国際協力について理解を深める
 - ・ねらい:参加者にとって海外を身近なものに感じるものとする
 - ・実施場所:中島会館
 - ・規模(参加人数及び予算):50人
 - ・成果等(具体的に記入):3/5実施予定
-
- ・事業名:第42回「東南アジア青年の船」事業地方プログラム受入
 - ・目的:東南アジア青年と県民・青年の交流
 - ・実施場所:熊本県庁、熊本南区役所等
愛知県豊橋市、新城市、岡崎市、名古屋市
 - ・規模(参加人数及び予算):30名程度
 - ・成果等(具体的に記入)
 - －熊本県:事業を支える人の多さを感じることができた。自分が参加した事業においてもこうやって既参加者を中心として多くの人が準備をしてくれていたということへの気づきが一番大きかった。
 - －愛知県:愛知県の中では名古屋市がとくに発展している。しかしもっと大きな視点から見ると、ローカル企業としてその発展を支えている一面もある。今回はそのような対称的なプログラムを盛り込むことで、青年達が自国に戻ってから愛知県での学びを活かしてほしいと思い企画した。またローカルユースとの交流では、お互いの文化を紹介し合ったり、一緒に愛知県の名物である味噌の博物館を見学することで、より一層交流を深めることができた。実行委員長という大きな役割を頂き、青年達の学びの姿勢、ローカルユースとの交流を楽しむ姿を見ることで、国際交流の楽しさをもっと伝えていきたいと改めて実感した。

その他(報告会)

<ul style="list-style-type: none">・事業名:SWY27 の報告会兼、SWY28 の宣伝・目的:SWY の魅力の発信・ねらい:大学内での SWY の宣伝、応募者を増やすこと・実施場所:大学・規模(参加人数及び予算):70 人くらい・成果等(具体的に記入):内閣府の方にも来てもらい、昼休みに約 20 分ずつ話した。私は個人的に swy の魅力を話すことができたので、より具体的にどんなことをして、何が得られるのかを伝えられた。
<ul style="list-style-type: none">・グローバルフェスタで IYEO の PR 活動
<ul style="list-style-type: none">・帰国報告及び説明会でのプレゼン 山梨 IYEO 帰国報告会(15 名程度参加) 静岡大学・山梨県 IYEO(20 名程度参加) 明治学院大学(20 名程度参加) 立教大学(20 名程度参加)

B.参加した内容(事業名、目的、ねらい、実施場所、規模(参加人数及び予算)、成果等を具体的に記入)

異文化理解

<ul style="list-style-type: none">・事業名:タイスタディツアー・目的:国際協調の精神を養う、現地の青少年育成についての理解・実施場所:タイ王国・規模(参加人数及び予算):14 名 60000 円・成果等(具体的に記入):タイの生活レベルを知れた。タイの子供も日本の子供も接し方が変わらないということが分かった。海外でのボランティア活動をしている方の姿勢が見られた。
<ul style="list-style-type: none">・事業名:国連グローバルコンパクト日中韓ラウンドテーブル・目的:日中韓の企業に向けて三か国のユースから提言を行う・ねらい:ユースの意見を企業に伝える、ユースと企業でサステナブルな社会を作る・実施場所:ソウル・規模(参加人数及び予算):80名程度

防災

<ul style="list-style-type: none">・事業名:IYEO30周年記念企画 VISIT 東北・目的:東日本大震災から4年目を迎える岩手県において、IYEO のネットワークを活かし、現地ですることができるを探る。・ねらい:仮設住宅等における支援活動を行なう。ボランティア活動を通して、地元の方々と交流する・実施場所:岩手県陸前高田市・規模(参加人数及び予算):30名程度・成果等(具体的に記入):多くの事業の既参加青年が集まり、国際交流、世代間交流を通して東北の地元の方々との親交を深めることができた。東北を再訪するきっかけにもなる。

ボランティア

<ul style="list-style-type: none">・事業名:乳児院お誕生会飾付・目的:子供たちのお誕生日をお祝いするためにバースデーボードを作成する・ねらい:親と暮らせない子供のお誕生日を祝い、子供たちが振り返った時に支えになってほしいという願いを込めて写真に残すこと。・実施場所:東京都済生会乳児院・規模(参加人数及び予算):3 人(約 500 円/月)・成果等(具体的に記入):毎回、乳児たちやスタッフの方に大変喜ばれております。
<ul style="list-style-type: none">・事業名:Second Harvest Japan・目的:ご飯をつくる・ねらい:食べものの無駄削減

- ・実施場所:秋葉原
- ・規模(参加人数及び予算):数えていない(1回30人程度かもしれない)
- ・成果等(具体的に記入):何食つったか覚えていません。

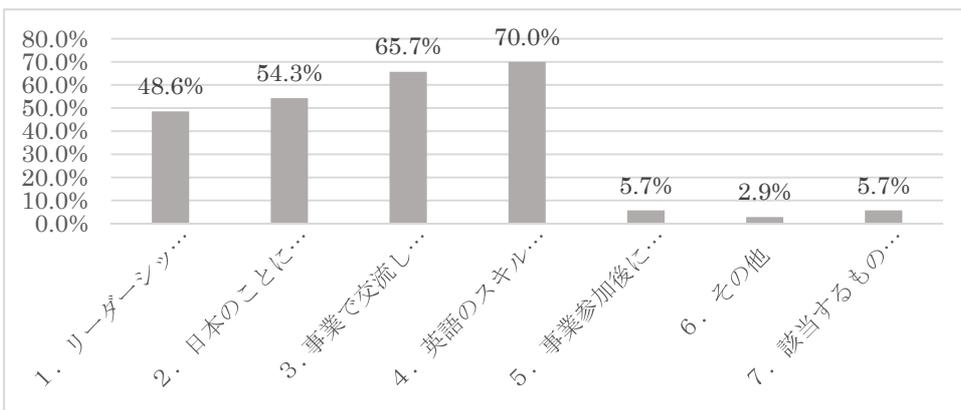
その他

- ・「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」報告会
- ・事業内容を知ってもらう
- ・宮城 IYEO 報告会(参加者約20名)
- ・大阪 IYEO 帰国報告会兼事業報告会(参加者約20名)
- ・兵庫 IYEO 事業説明会、帰国報告会(参加者約20名)
- ・日韓交流連絡会議
- ・SWY28 事前研修
- ・SWY28 陸上研修
- ・日本・ASEAN ユースリーダーズサミット 当日ボランティア
- ・九州ブロック大会、近畿ブロック大会
- ・国際青年育成交流事業の受入

問5-1 あなたは内閣府事業への参加をきっかけに、各種スキルの開発に取り組むようになりましたか。該当するものをお選びください。(複数選択可)

「4.英語力のスキルアップに取り組んだ」は 70.0%の割合で取り組んでおり、次に、「3.事業で交流した国の社会や文化(言語を含む)について学びを深めた」が 65.7%、「2.日本のことについてより理解を深めるための学び始めた」が 54.3%、「1.リーダーシップやマネジメント力を向上させるために自己啓発活動に取り組んだ」が 48.6%であった。

項目	人数	%
1. リーダーシップやマネジメント力を向上させるために自己啓発活動に取り組んだ	34(名)	48.6%
2. 日本のことについてより理解を深めるために学び始めた	38(名)	54.3%
3. 事業で交流した国の社会や文化(言語を含む)をより深く学び始めた	46(名)	65.7%
4. 英語のスキルアップに取り組んだ	49(名)	70.0%
5. 事業参加後に日本国外でも通用する資格をとった	4(名)	5.7%
6. その他	2(名)	2.9%
7. 該当するものはない	4(名)	5.7%



問5-2 【問5-1で1~6を選んだ方のみ回答】どのようにスキル開発に取り組みましたか。どのようなスキルの向上にどのような方法で取り組んだか、具体的にご記入ください。

圧倒的にリーダーシップ、マネジメント力の向上に加え、イスラム文化への学びを深める努力をしている言及が目立つ

<p>【語学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語で開講されている大学の授業を継続的に受講。 ・新聞を良く読み日本のことについてより理解を深めた。スピーキングの教材を使い、英語のスキルアップを図った。 ・アラビア語の勉強、日本語教育能力検定試験を受験して合格、外国人参加青年と頻繁に英語でオンライン会話する等 ・TOEIC 受験 ・英語のスキルアップとして、イギリスに留学している
<p>【リーダーシップ、マネジメント、企業家精神】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・entrepreneurship in education という授業を受講中。事業期間中に social entrepreneurship のコースに所属していたが、そこで学んだ事と自分の専攻に関わる教育という分野の中でどの様に生かしていけるかを学んでいる。 ・学校の中でもさまざまなリーダーの形を考えるようになった。 ・リーダーシップについても更なる向上を求め、ワークショップに参加しました。 ・福沢諭吉記念文明塾に所属し、リーダーシップや多方面にわたる知識や、さまざまな国籍、年代の人とのグループワークに取り組んだ ・リーダーシップとファシリテーション力の向上に取り組んだ。事業で学んだ全方位型リーダーシップを実際の仕事の場面で適用した。また、ファシリテーターから紹介されていたソリューションフォーカスに関する書籍を読み、スキルの向上に励んだ。 ・フィリピン支援団体のチームビルディングをご指導いただきながら、リーダーシップ・マネジメント力の向上に努めた。
<p>【時事教養】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本や事業で交流した国についてより理解を深めるために、本や新聞などを読んで学んでいる。とくに宗教に関する点や、その宗教が関連する社会情勢などにも、より関心を持つようになった。 ・その他(プロトコルマナー): マナー教室に通い、初級クラス修了。現在中級クラスの受講中
<p>【文化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SWY をきっかけに、バーレーンやオマーンを訪れることにした。それに伴い、本で文化や歴史を学んだり、アラビア語を少し勉強したりした。 ・日本の文化、伝統を海外の方に伝えられるように、学び始めた。日常的に着物を着るようになった。 ・その国や文化のイメージよりも、実際に自分の目で見て物事を判断できるようになった。 ・イスラムについての書籍を読むようになった。 ・日本の宗教や歴史、文化について、十分英語で説明できるように英語のスキルアップを試みました。そのため、それらの英語で書かれた本を購入し、勉強しました。また、事業であ初めて交流したイスラム圏の青年達に影響を受け、イスラム教について理解を深めるため、書物を読むなどをしました

問6 これからどのような事後活動(社会活動)に取り組みたいです。これから取り組みたい活動または、既に取り組んでいる事後活動について、グローバルリーダー育成事業で得たこと、広げたネットワーク、そして自身で向上させた(伸ばした)スキルを使ってどのように活動していくか、1年以内、5年以内の計画を具体的にご記入ください。

1年以内の計画には事業の報告を行うという意見が多いが、5年以内の計画には、起業についての言及が目立つ

問6-1 1年以内の計画

異文化理解

今後出会う世界の人、一人ひとりへの十分な理解をしたいため、国際情勢や異文化理解のスキルを更に向上する。
国際交流活動をもっと発展させたい。 IYEO の組織を活用して、地元の愛知県と世界を繋げるプログラムやイベントを企画したい。
日本でも外国人向けの日本語教育支援や日本文化の体験活動等に從事してみたい。

教育

小学校教員になるので、国際理解教育の題材などに国際交流の経験を生かして、これからの時代を生きる子ども達に国際社会で生きるスキルを身につけられるような授業と、指導をしていきたいです。